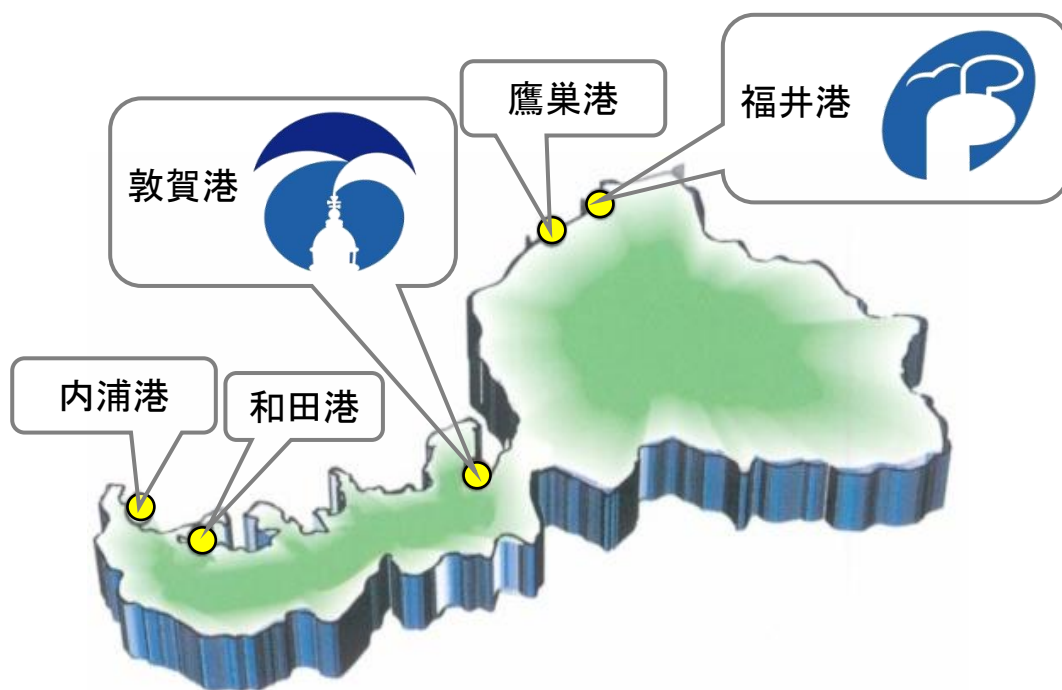


福井県内港湾の近況

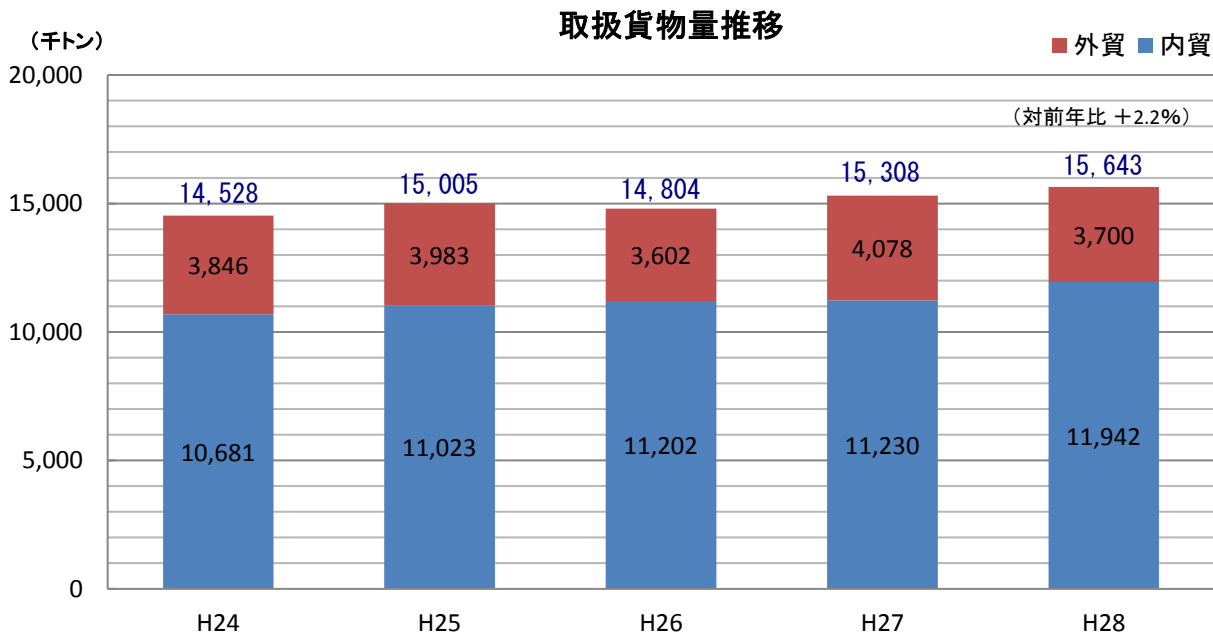


福 井 県

敦賀港の取扱貨物量の推移と内訳

1-1-1 取扱貨物量の推移

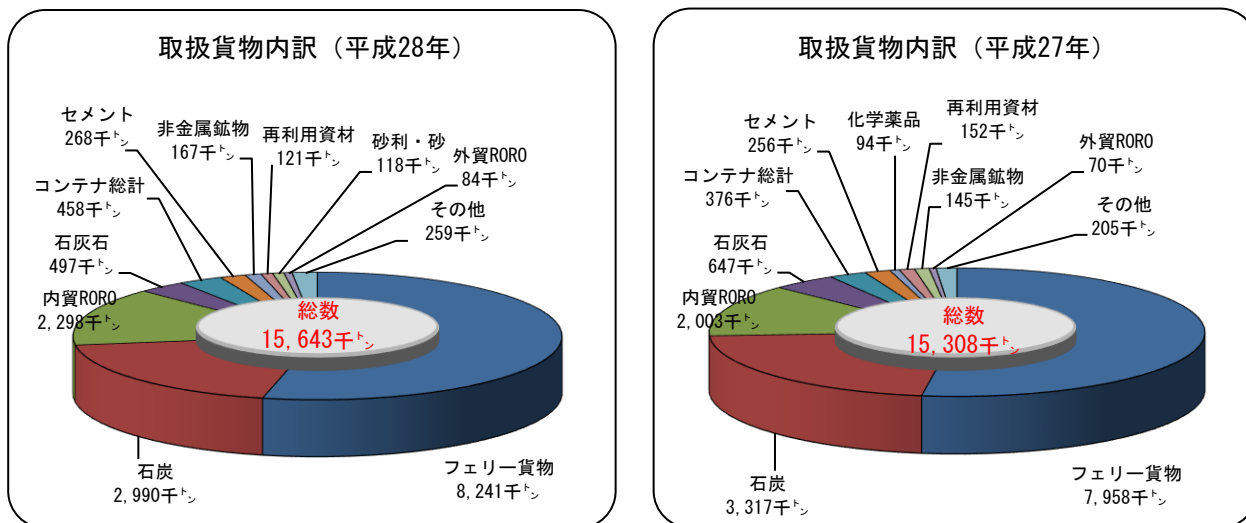
敦賀港の取扱貨物量は、近年1,500万トン前後で推移している。平成28年は前年より約33万トン増加し、1,564万トンとなった。（+2.2%）



注) 合計値は四捨五入の関係で一致しない場合がある。

1-1-2 取扱貨物の内訳

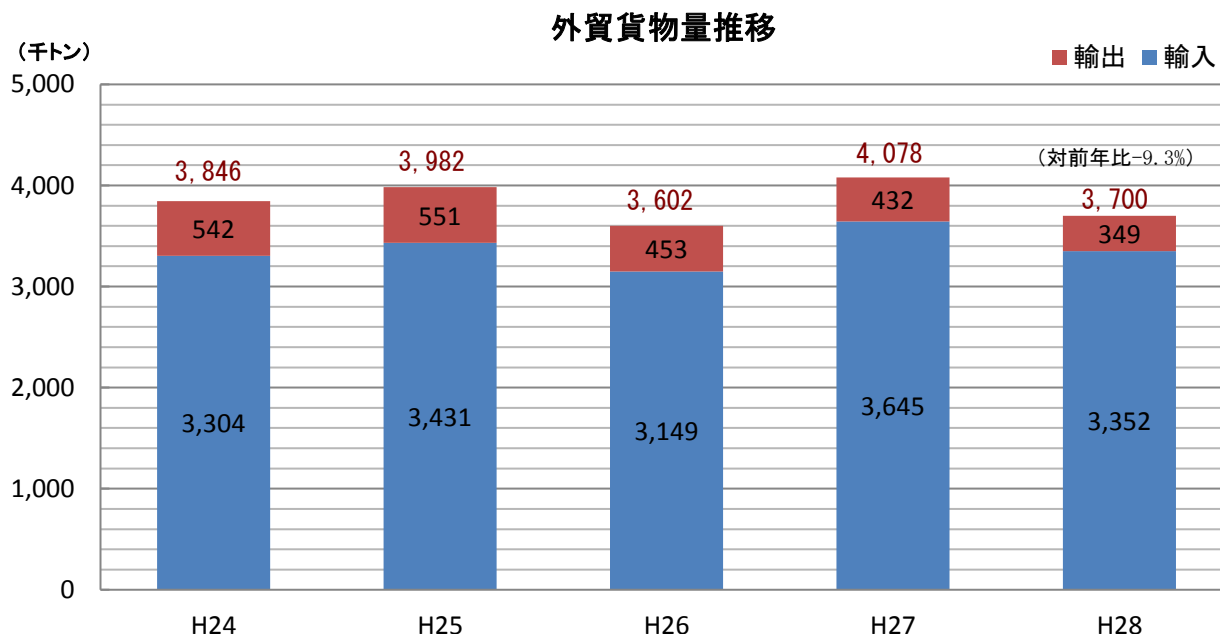
敦賀港の取扱貨物の内訳は、内買フェリー、内買RORO船による貨物が多く、これらの合計が全体の約7割を占めている。その他の品目では、石炭が約2割を占めている。



注) 合計値は四捨五入の関係で一致しない場合がある。

1-2-1 外貿貨物量の推移

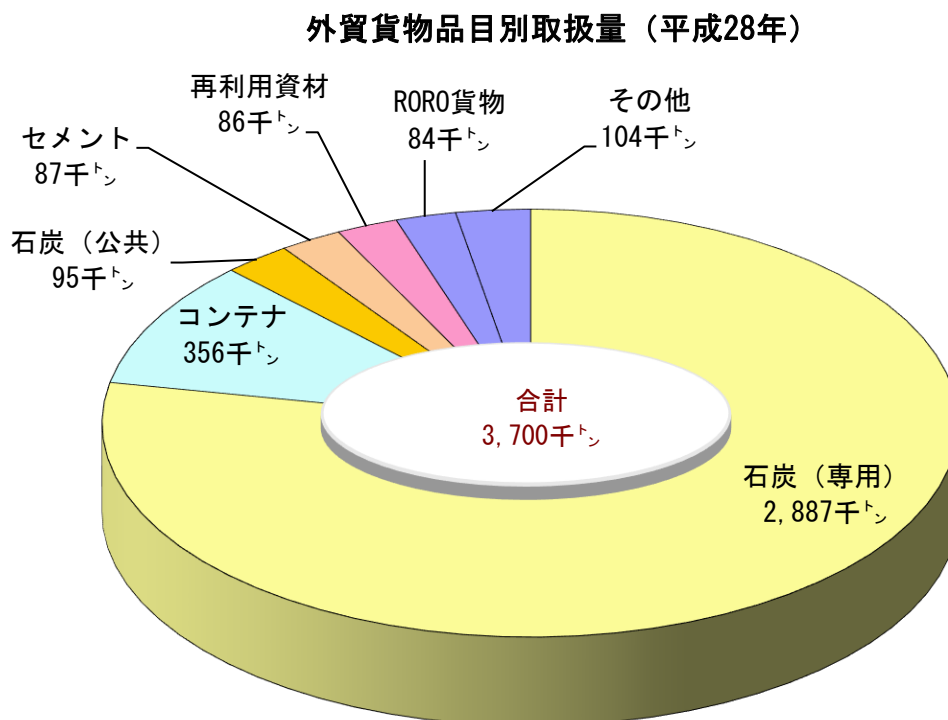
平成28年の外貿貨物量は約370万トンであり、前年から約38万トンの減少となった。（-9.3%）



注1) 合計値は四捨五入の関係で一致しない場合がある。

1-2-2 外貿貨物品目別取扱量

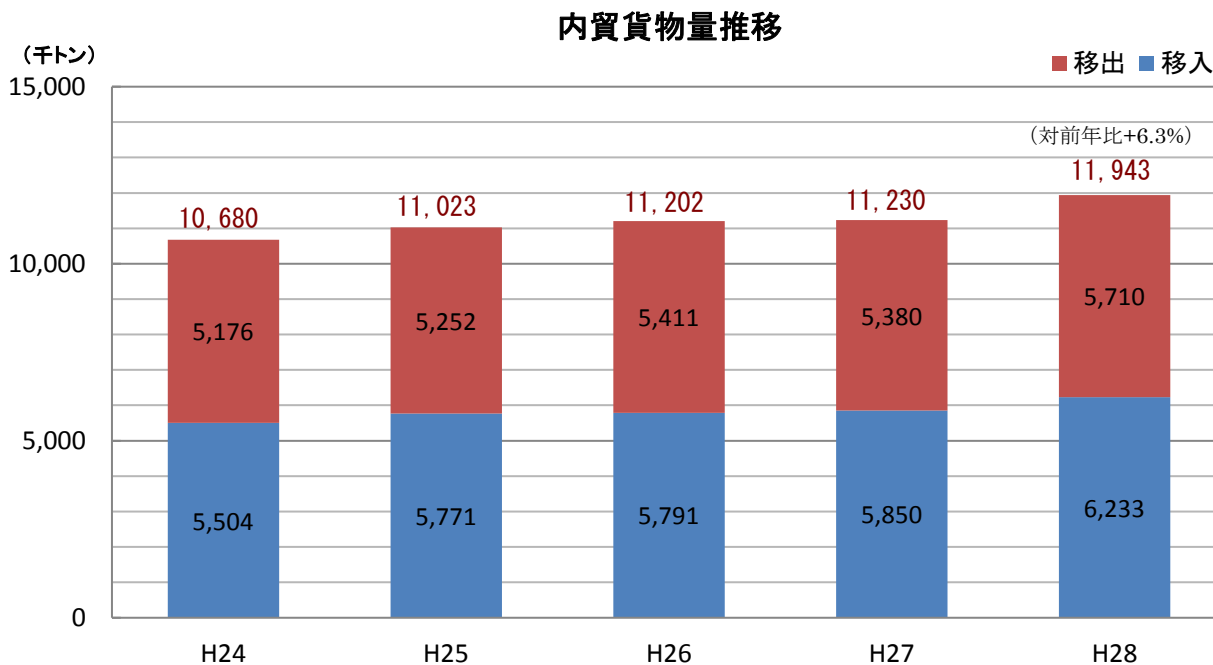
外貿貨物量の品目別では、北陸電力、敦賀セメントの専用埠頭で取り扱われている石炭が最も多く、全体の約7割を占めている。



注) 合計値は四捨五入の関係で一致しない場合がある。

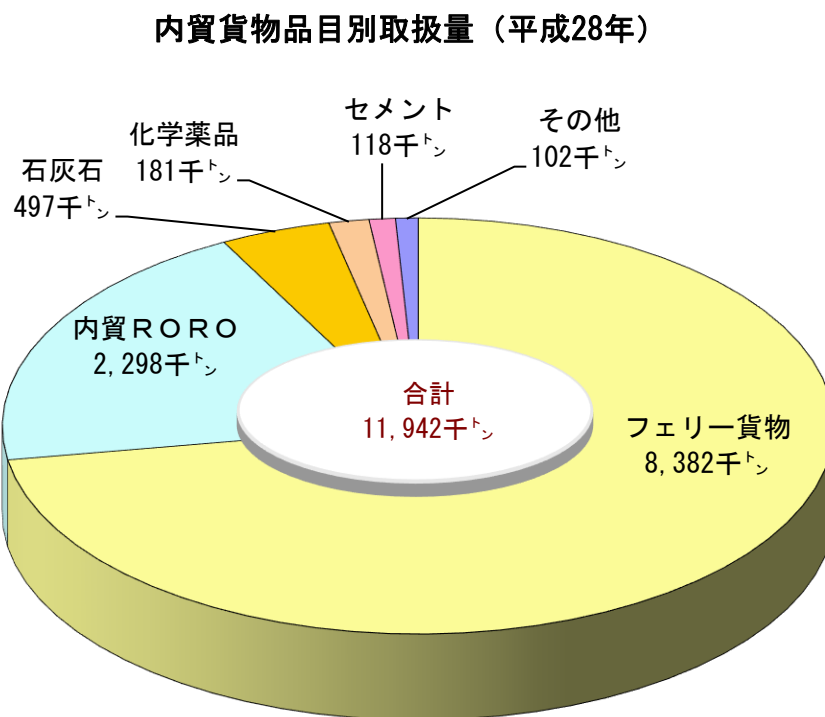
1-3-1 内貿貨物量の推移

平成28年の内貿貨物量は約1,194万トンで、前年に比べ約72万トン増加した。（+6.3%）



1-3-2 内貿貨物品目別取扱量

内貿貨物の品目別では、北海道行のフェリー貨物・RORO貨物が合計で全体の約9割を占めている。



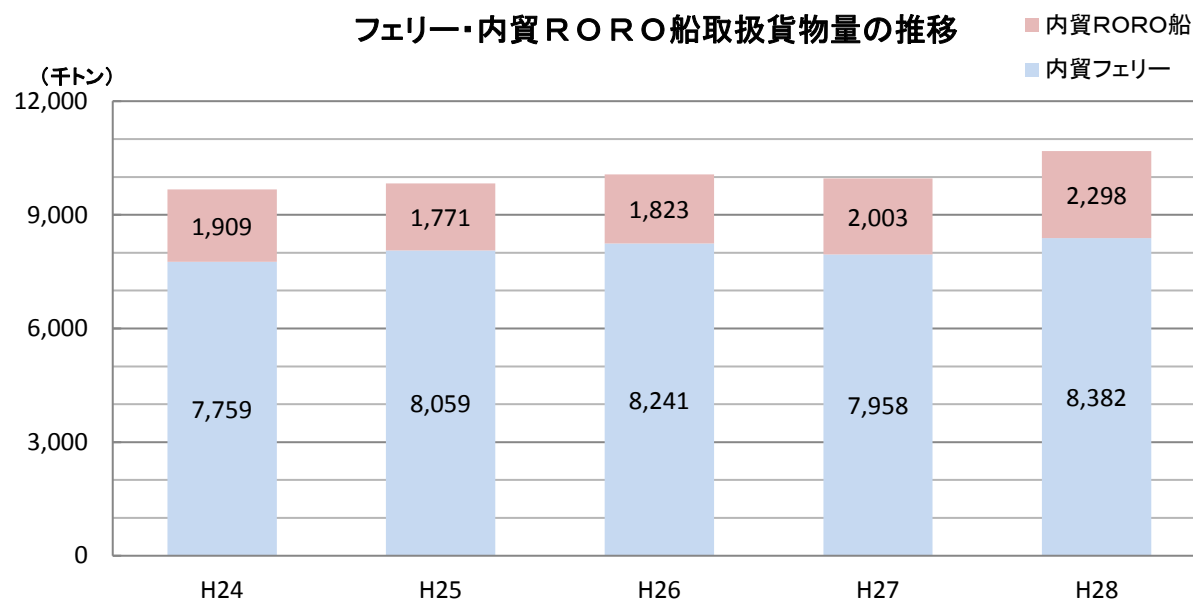
注) 合計値は四捨五入の関係で一致しない場合がある。

1-3-3 フェリー貨物・内貿RORO貨物量の推移

平成28年の内貿フェリー貨物は約838万トンとなり、前年より約42万トン増加した。（+5.3%）
内貿RORO貨物は、約230万トンとなり、前年より約30万トン増加した。（+14.7%）

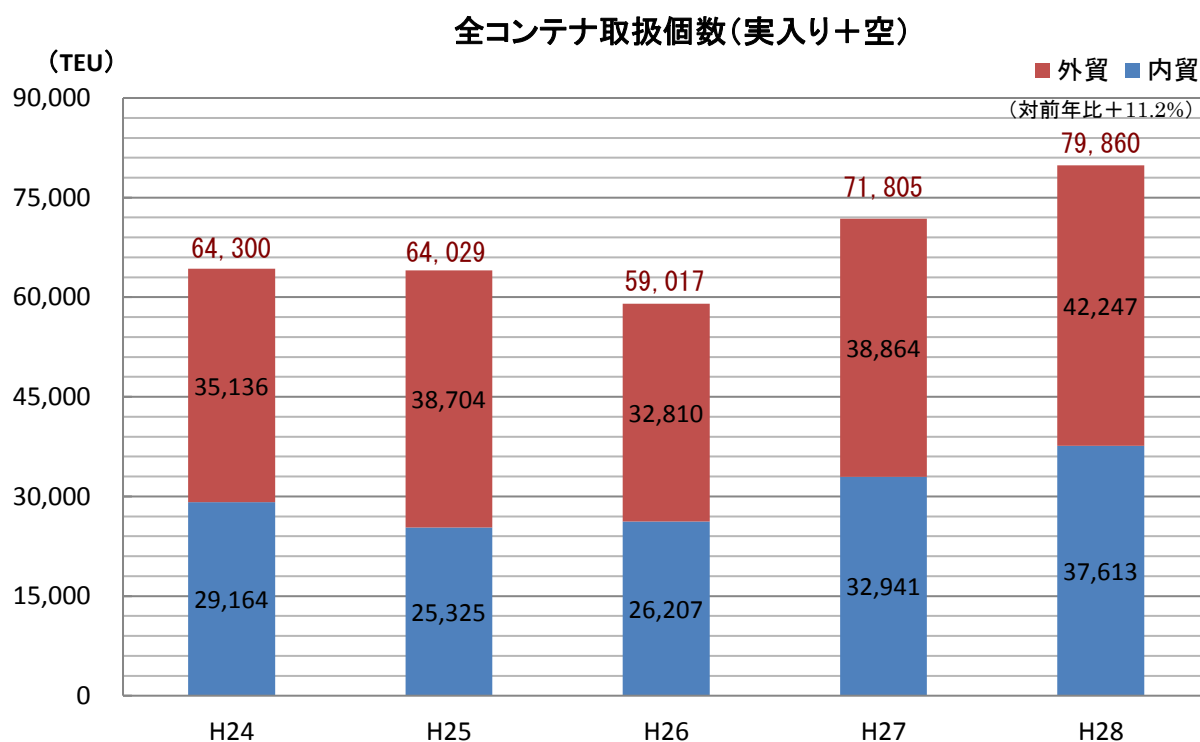
※ 内貿フェリーは昭和45年から航路が開設しており、平成28年は、苫小牧港への直行便（週7便）と新潟港、秋田港を経由する寄港便（週1便）とで週8便就航している。

※ 内貿RORO船は、平成14年から航路が開設しており、苫小牧港への直行便が週6便就航している。



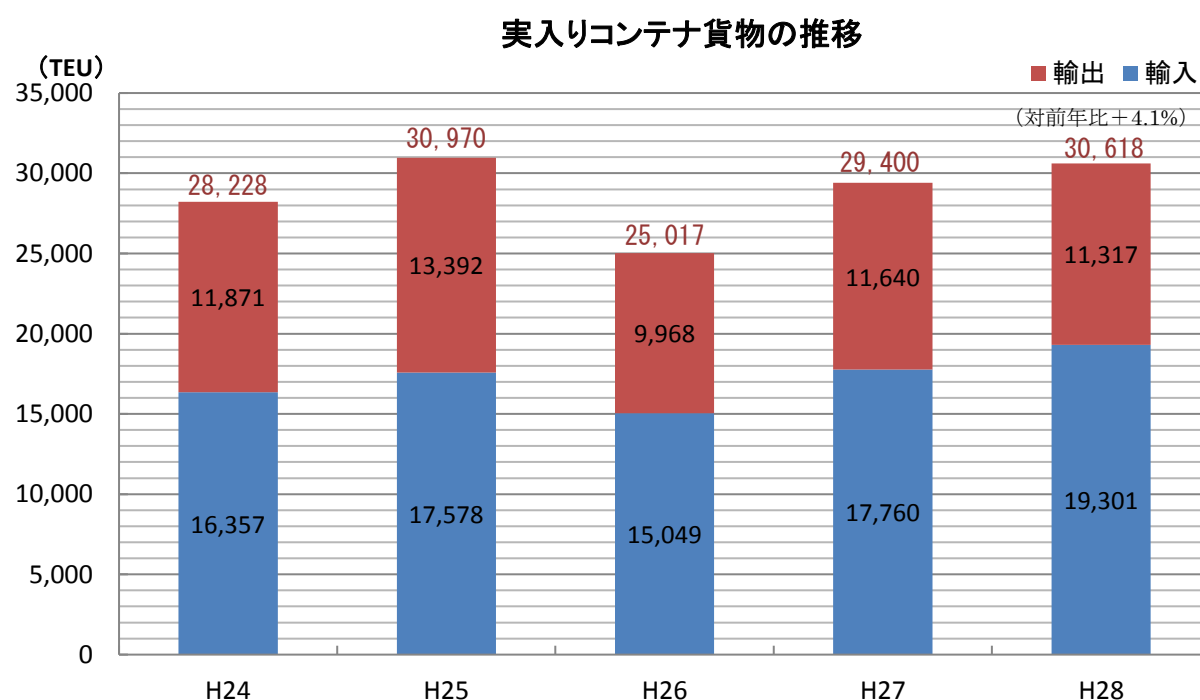
1-4-1 全コンテナ取扱個数の推移

平成28年の全コンテナ取扱個数（実入り+空）は79,860TEUとなり、昨年より8,055TEU増加した。（+11.2%）



1-4-2 外貿コンテナ（実入り）取扱個数の推移

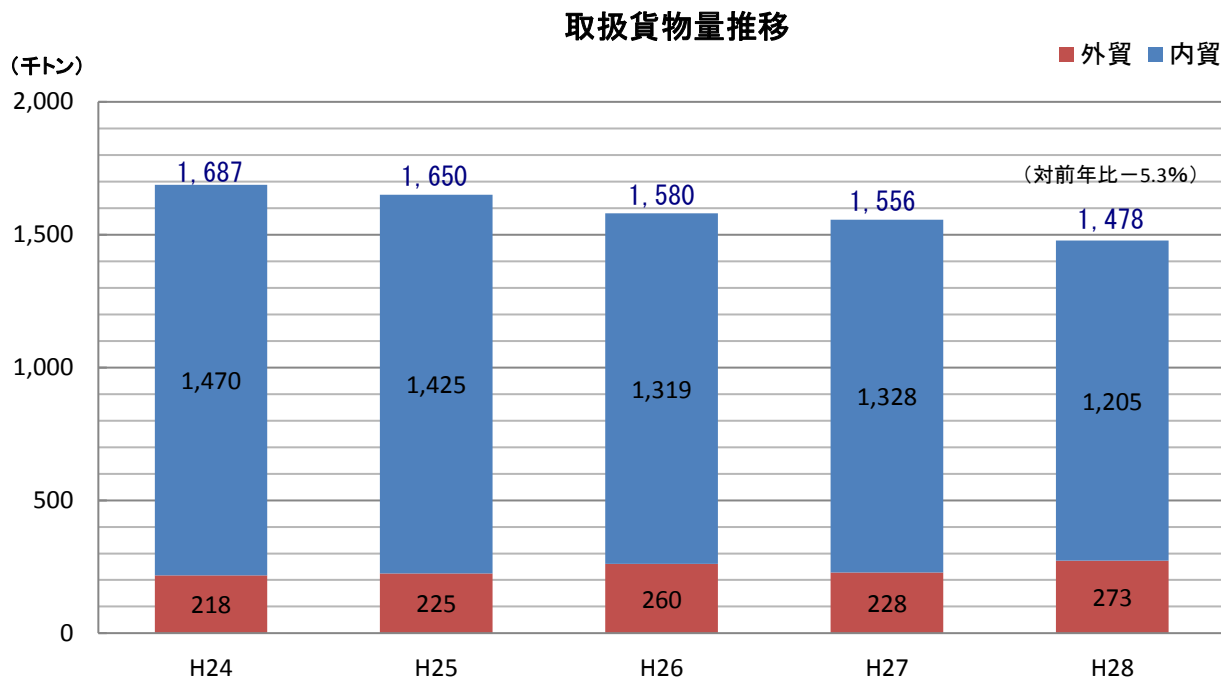
平成28年の外貿コンテナ個数は30,618TEUとなり、前年より1,218TEU増加した。（+4.1%）



福井港の取扱貨物量の推移と内訳

2-1-1 取扱貨物量の推移

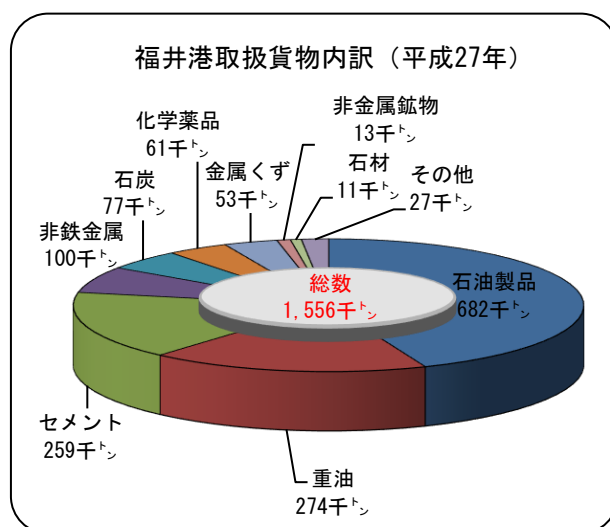
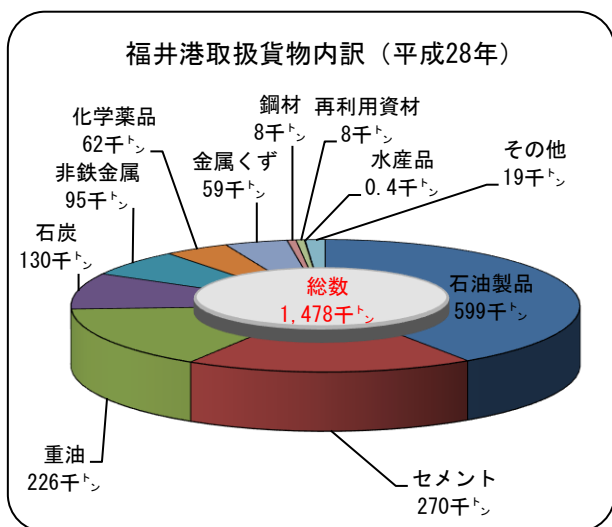
福井港の取扱貨物量は、近年150万トン前後で推移している。平成28年は外貿貨物量が増加したものの、内貿貨物量の減少により、前年に比べ約7.8万トン減少した。（-5.3%）



注1) 合計値は四捨五入の関係で一致しない場合がある。

2-1-2 取扱貨物の内訳

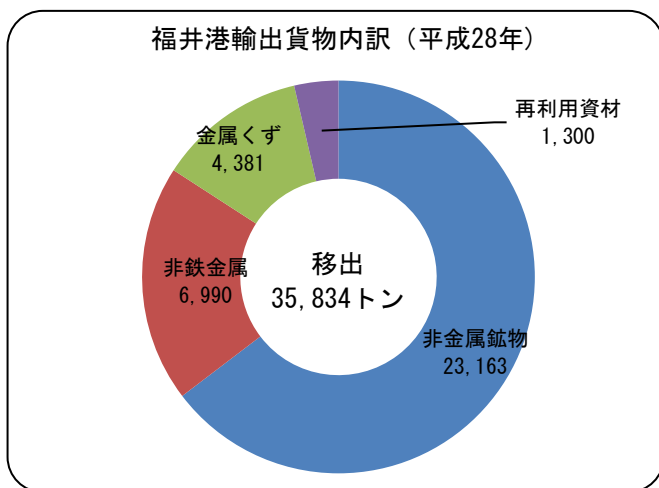
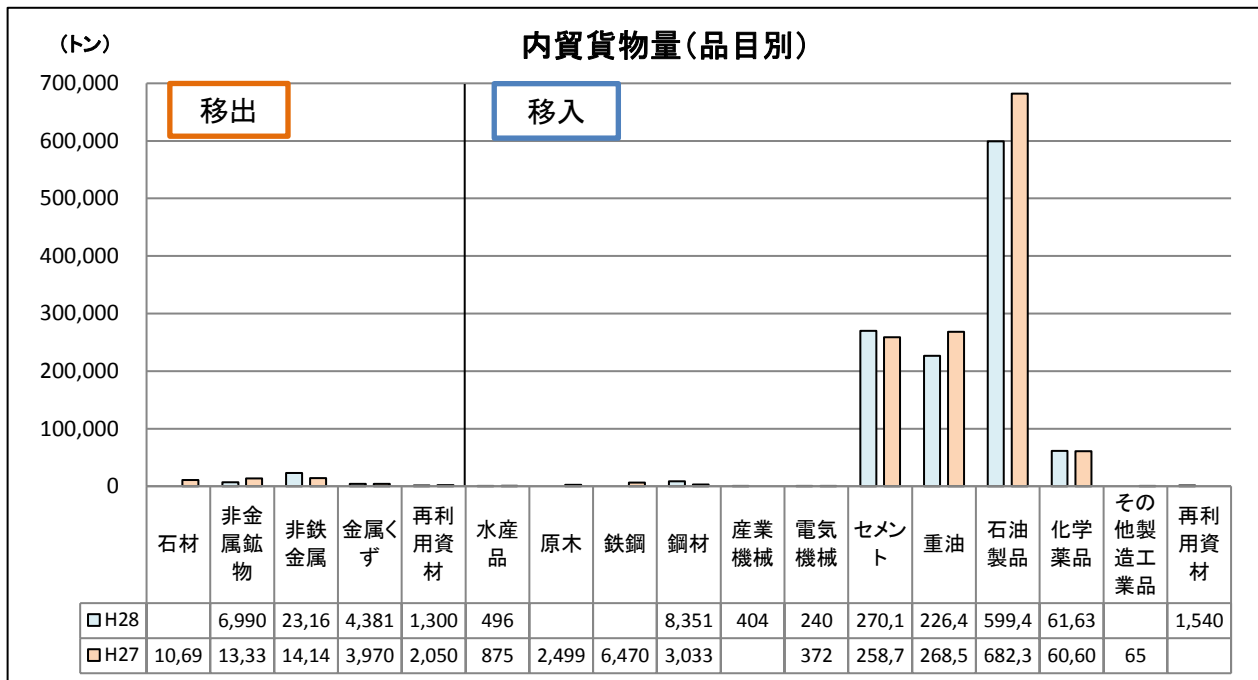
福井港における主要な取扱貨物は、石油製品、重油およびセメントであり、これらで全体の約8割近くを占めている。



注) 合計値は四捨五入の関係で一致しない場合がある。

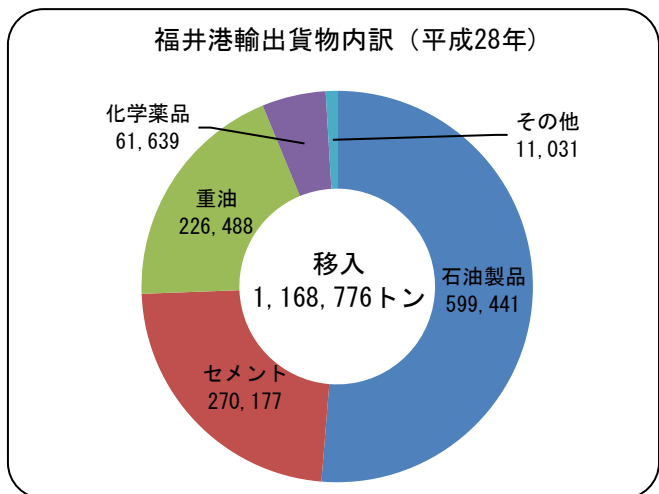
2-2-1 内貿貨物の内訳

H28の内貿貨物量は約120万トンであり、昨年より約10万トン減少した。（-9.3%）



移出

- ・ 非鉄金属（アルミ）が約6割を占めている。
- ・ アルミの需要が増加したため、昨年より約9千トン増加した。

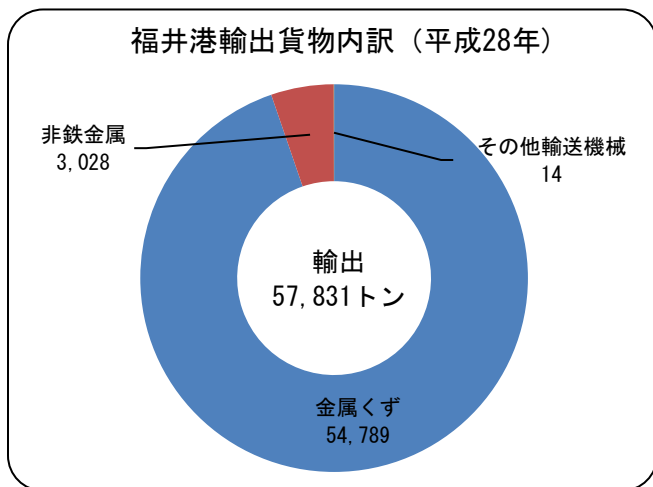
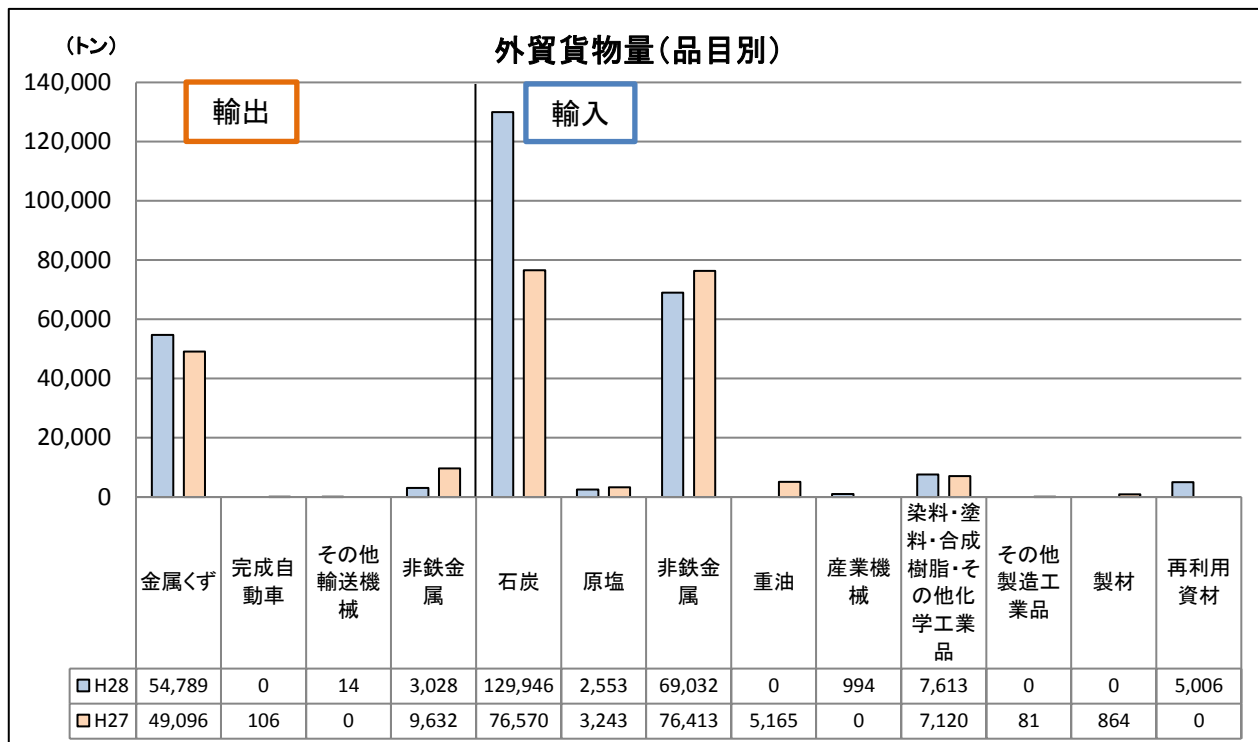


移入

- ・ 石油製品と重油で約7割を占めているが、近年は減少傾向にある。
- ・ 平成28年は前年より石油製品が約8万トン減少し、重油は約4万トン減少した。

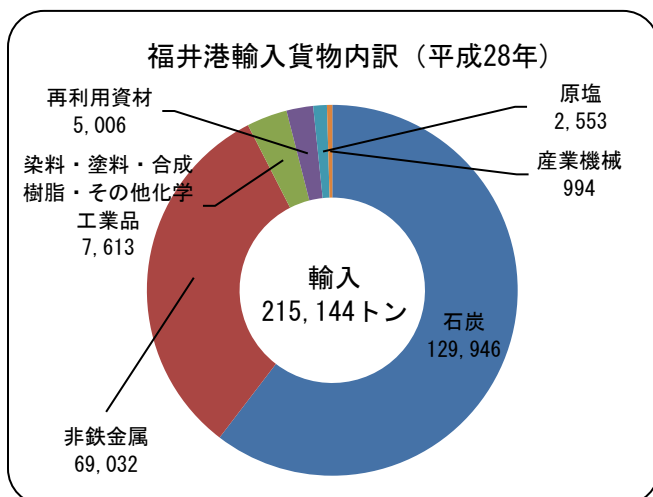
2-3-1 外貿貨物の内訳

福井港の平成28年の外貿貨物量は約27万トンであり、前年より約4万トン増加した。（+19.6%）



輸出

- 平成28年は前年より約1千トン減少した。
- 金属くずが主要貨物であり輸出貨物全体の約9割を占めている。



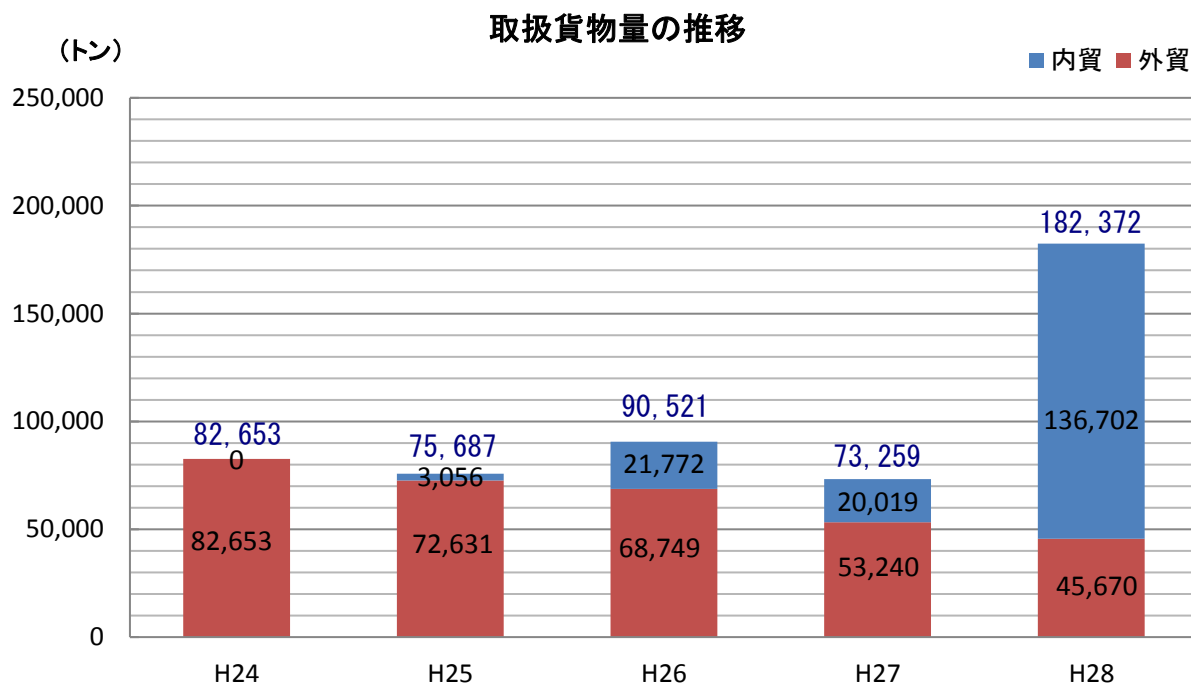
輸入

- 平成28年は前年より約4万トン増加した。
- 石炭と非鉄金属が、輸入貨物量全体の約9割を占めている。
- 石炭の需要が増えたため、取扱量は前年より約5万トン増加した。

内浦港の取扱貨物量の推移と内訳

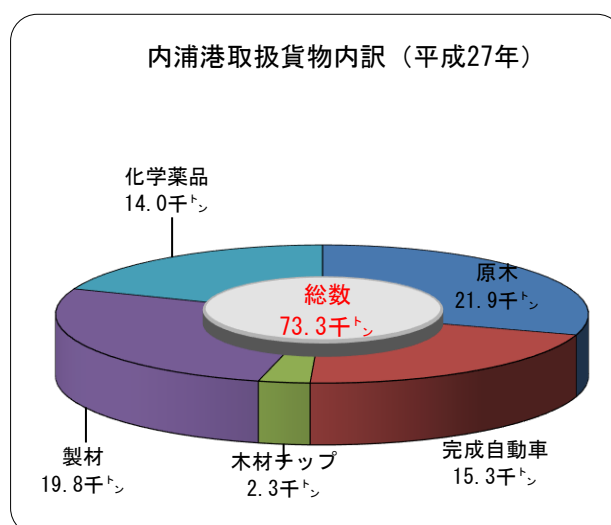
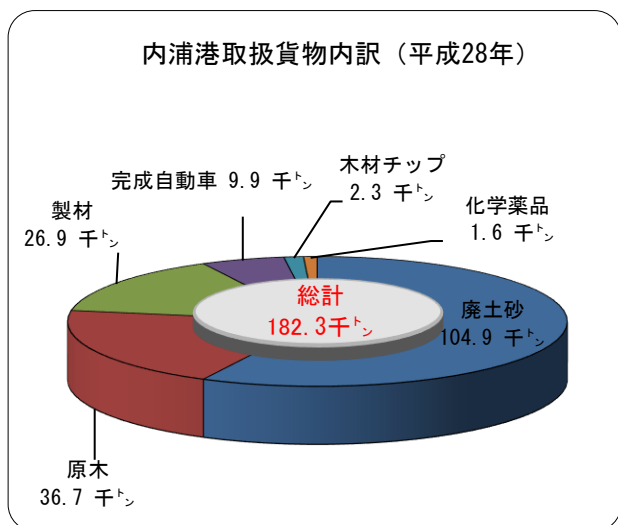
3-1-1 取扱貨物量の推移

内浦港の平成28年の取扱貨物量は182,372トンとなり、前年より約10万トンの増加となった。
(+148.9%)



3-1-2 取扱貨物の内訳

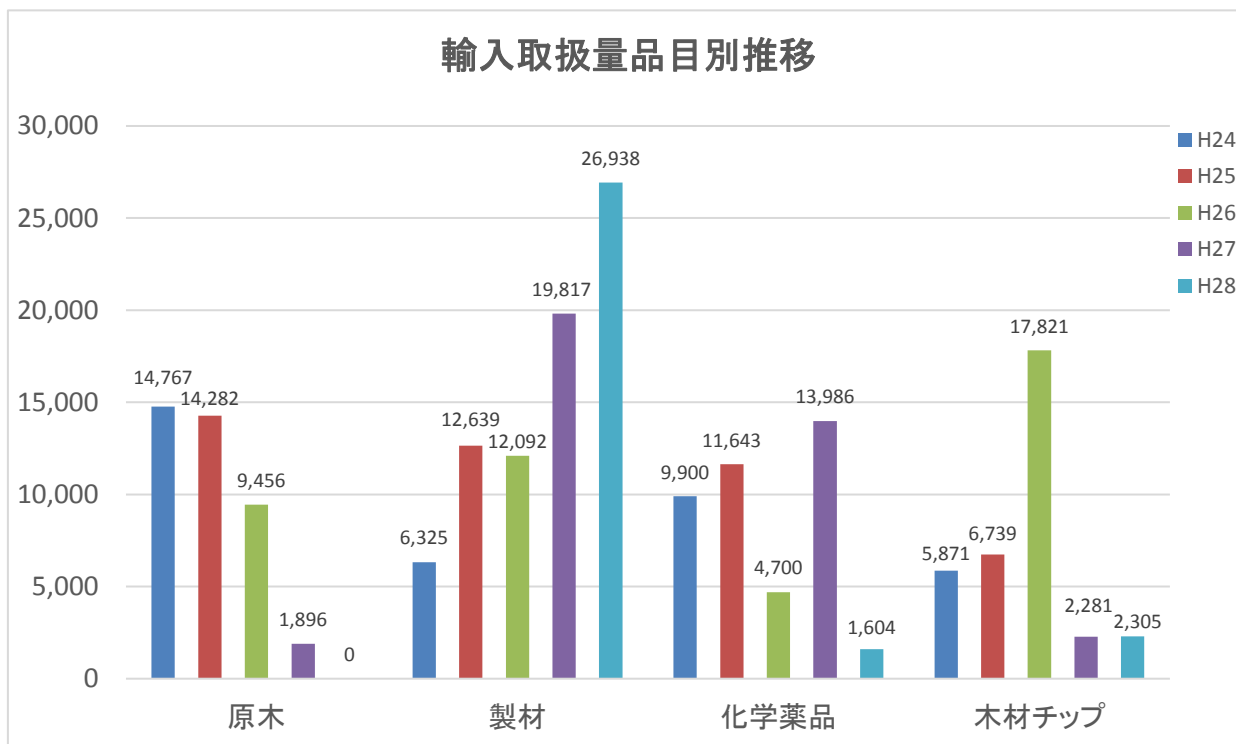
内浦港の主な取扱貨物は、原木、完成自動車、木材チップ、製材であり、原木と完成自動車が総取扱量の約51%を占めている。



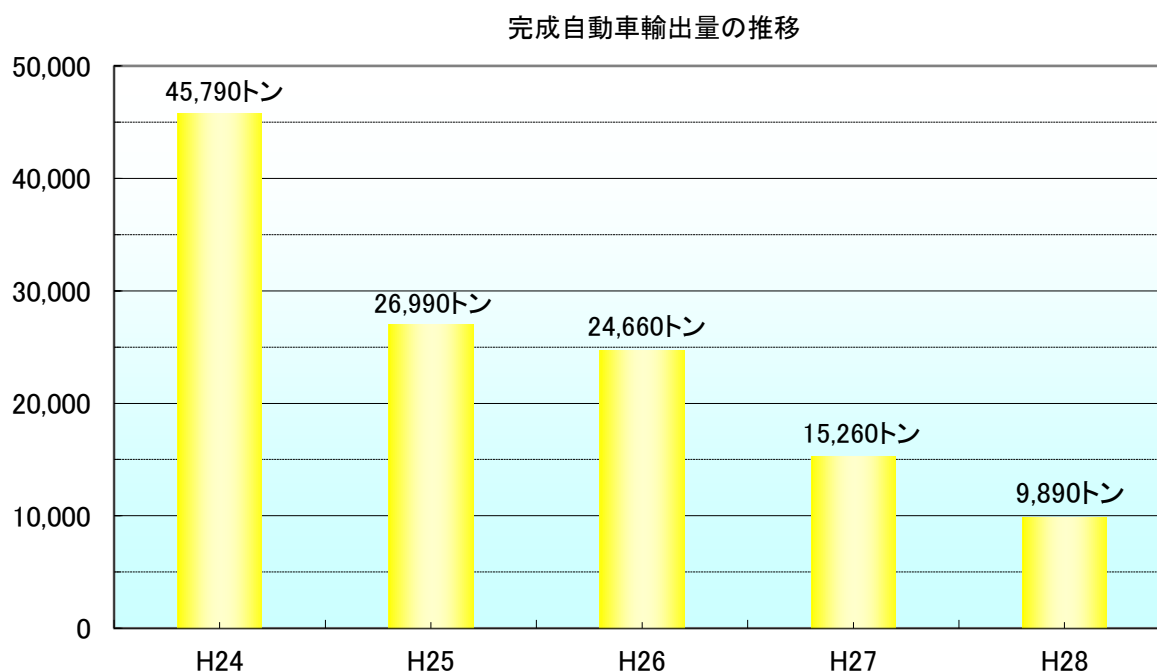
注1) 合計値は四捨五入の関係で一致しない場合がある。

3-2-1 外貨貨物の内訳

輸入取扱貨物の推移を品目別に見ると、製材が年々増加している。製材の取扱量は平成28年で26,938トンとなり、前年より7,121トン増加した。



完成自動車は内浦港の主要な貨物の一つであるが、近年はロシア経済低迷の影響を受けて輸出量が年々減少している。今年の完成自動車輸出量は9,890トンであり、前年より5,370トン減少した。

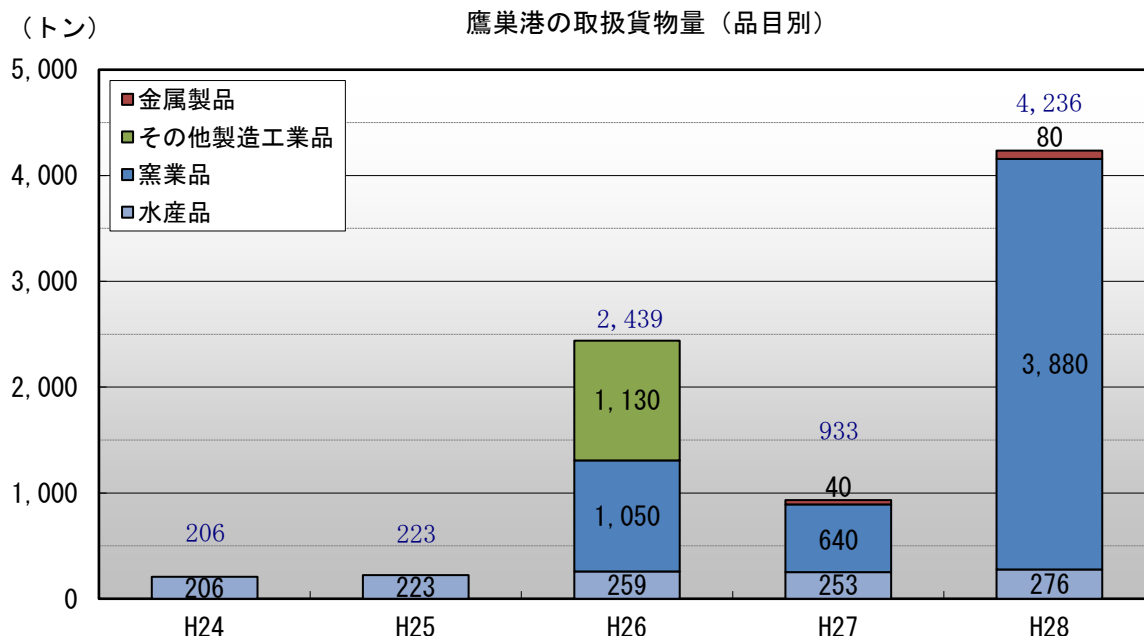


また、平成28年4月から国内産原木の中国向け輸出を開始しており、本年の取扱量は4,933トンだった。

鷹巣港の港勢

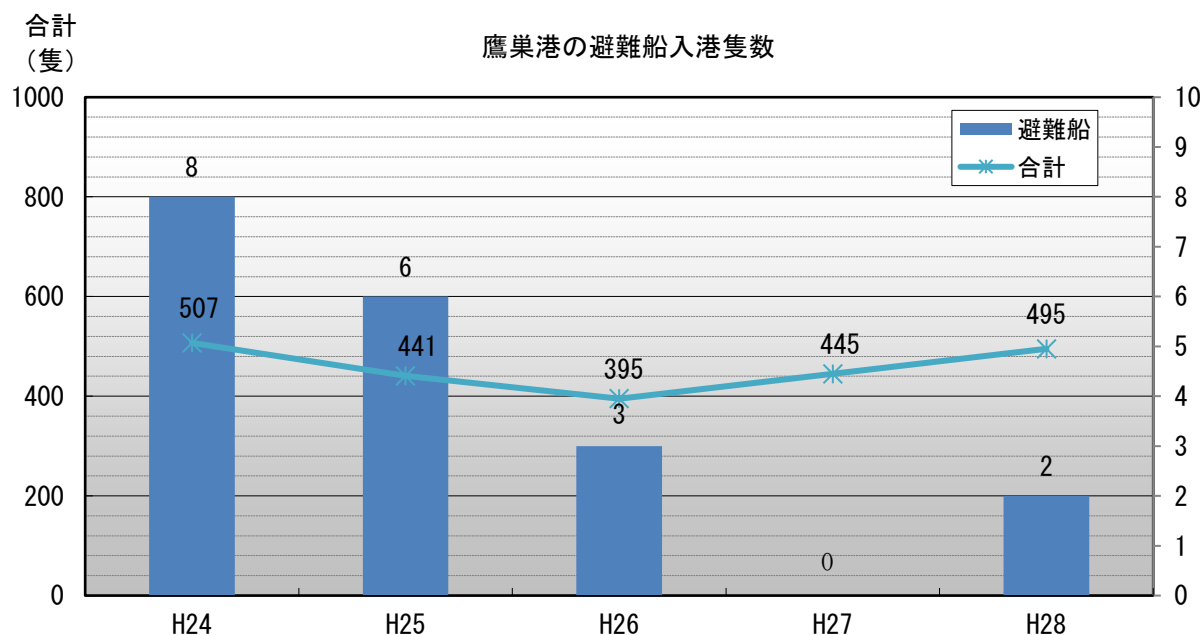
4-1-1 取扱貨物量の推移

鷹巣港の取扱貨物量は、近年、工事用資材の搬出により取扱貨物量が増加している。
平成28年は4,236トンで前年より3,303トン増加した。



4-1-2 入港船舶隻数の推移

鷹巣港への入港船舶は、漁船、工事用作業船、避難船であり、近年は500隻前後で推移している。
避難船の入港実績について、平成28年は2隻であった。



和田港の港勢

5-1-1 取扱貨物量の推移

和田港の取扱貨物量について、平成28年は557トンで、前年より71トン増加した。（+14.6%）

